

## 平成25年度第1回広島市都市デザインアドバイザー会議

日 時 平成25年7月12日（金）16:00～

場 所 広島市役所本庁舎2階講堂

### ○長光都市デザイン担当課長

それでは、きょう御出席予定の伏見先生、ちょっと遅れて来られるということですので、時間になりましたので始めさせていただきます。

それでは、ただいまから平成25年度第1回広島市都市デザインアドバイザー会議を開会いたします。

まず最初に、都市計画担当部長の新上より御挨拶を申し上げます。

### ○新上都市計画担当部長

ただいま紹介ありました都市計画担当部長の新上でございます。

本日は、どうもお忙しい中を、また暑い中をお越しいただきましてありがとうございます。今回のアドバイザー会議につきましては、前回の結果を踏まえた第2回と聞いております。実り多いものになってくると期待をしているところでございます。

一方で、私どものところでは、今、景観計画というのを策定してまして、また、別途関係資料なども御紹介させていただく機会があるかと思うんですが、来年度に向けてそういった取り組みをしております、広島歴史、それから魅力的な自然環境などを生かしながら、美しく品のある都市計画というものに向けて取り組んでいるところでございます。

今回のペDESTリアンデッキの話も、二葉山の自然環境を生かしながら、さらには北口の開発もにらんで、そういった町並みと調和するという形の中で、陸の玄関にふさわしい景観をつくっていかうという取り組みの一つだろうというふうに認識しております。

どうぞ、有意義な、貴重なアドバイスをいただきまして、実りあるものになることを期待して、御挨拶にかえさせていただきます。

どうも、ありがとうございました。

### ○長光都市デザイン担当課長

本日の議事についてですが、「広島駅新幹線口のペDESTリアンデッキ」となっております。

出席者につきましては、お手元にお配りしております出席者名簿をもって、御紹介にかえさせていただきます。

なお、ここで御紹介ございますが、本会議の委員をしていただきました及川先生におかれましては、一身上の都合をもちまして6月13日付で委員を辞任いたしております。

それでは、議事に移りたいと思います。これからの進行は、岡河座長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

#### ○岡河座長

きょうも、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。本日の議事の「広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキ整備事業」について、御説明をお願いいたします。

#### ○谷本街路課長

道路交通局道路部街路課長の谷本でございます。よろしくお願いいたします。

早速ですが、広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキ整備事業について、御説明いたします。

着席にて説明させていただきます。

広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキについては、この先「ペデ」と表現させていただきます。

前回、平成25年3月26日開催の会議で頂戴しました主な委員の方々の御意見を平面形状に関するもの、上屋構造に関するもの、軟らかさの表現、大きく三つに分類しまして、この対応方針を検討しました。

お手元の資料の1ページ目をごらんください。

これ、左側に項目、次に主な意見、その次に対応、それから対応のイメージ図という配列になっております。その一番最初、項目の平面形状でございますが、これにつきましては、岡河委員、若本委員から、直線的でにぎわいが感じられない、人のたまりがあればよいのではないかとの御意見がございました。また、岡河委員から、隅切りの部分については、曲線で処理すればよいのではないかとの御意見も頂戴しています。

この御意見への対応につきましては、中央ペデと東西ペデの取りつけ部分にふくらみを持たせ、人のたまり空間を確保し、にぎわいを演出したいと考えております。また、隅切り部分については、曲線形状とすることで人の流れをスムーズにするとともに、平面的なやわらかさを演出したいと考えています。

一番右の欄に、これらの御意見に対するイメージ図を載せております。それから、お手元にもう一冊、前回提示した配置図というのがあるかと思いますが、その一番最初の

ページを見ていただきますと、これが第1回目で我々が提示させていただきました配置図でございます。見てのとおり隅切りが直線的であった部分を曲線にする。それから、真ん中部分にふくらみをもたせて、たまりを設けた形になってると、こういった変更部分を、そこに赤く示しております。

続きまして、資料1の下の段の上屋構造についてです。

まず、東西ペデについてですが、東西ペデというのは新幹線口に平行してついでるペデ、これを東西ペデと言いますが、そのペデについてですが、東西ペデは駅ビルに沿う形に設置されていることから、にぎわいを演出するために幅を広いところで約9メートルとすることにしています。この幅員、幅を膨らませる部分について、前回、藤井委員からの雨天時に配慮して、全面屋根を設置したほうがよいのではないかと御意見を頂戴いたしました。これは、前回提示した配置図の3枚目を見ていただくと、前回の断面図が出ております。この一番左下でございます東西ペデでなんです、幅が9メートルと広い中、通した4メートルの天井であったということから、そういった御意見をいただいております。

この御意見への対応につきましては、雨天時においても利用者が快適、かつ自由に通行できることがやはり必要であると考えまして、全面屋根を設置することにいたしたいと考えています。そのイメージ図が、右側にある図面でございます。

この全面屋根を設置することに伴いまして、特に幅が9メートルと広がる部分については、日中でも暗くなるのが考えられますので、屋根材についても再検討を行いました。そして、採光、光を取り入れることに配慮いたしまして、幕材の屋根を使用することを考えております。これは、東京ドームとかに使っているような幕の屋根ですね。本通りの商店街のアーケードにもあるような素材の屋根で、結構、耐久性のある屋根でございます。

続きまして、資料2ページ目をごらんください。上屋構造の西側ペデでございます。西側ペデの上屋につきましては、清田委員から前回お示しさせていただいた片持ち式の上屋、これが前回でいきますと一番右下、西側ペデのこの図面でございます。この片持ち式の上屋では風を受ける形となりまして、雨天時には雨よけとして機能しないのではないかと御意見をいただいております。また、及川委員からは、既存の東側のペデを全く無視したデザインはいかがなものかと御意見もありました。

これらの意見への対応につきましては、雨天時の吹き込みを考慮しまして、西側ペデ

の上屋はフラット、平らなものとしたいと考えています。また、フラットとすることに伴いまして、片持ち式を取りやめ両柱式とすることにします。そして、基本的には東側の既設のペデと同様なデザインとすることを考えています。それが対応のイメージ図でございます。

続きまして、やわらかさについてでございます。やわらかさにつきましては、前回伏見委員から直線的で圧迫感が出てくるため、平面的なやわらかさや視覚的なやわらかさを出したほうがよいのではないかとの御意見をいただいております。

この御意見への対応につきましては、まず、平面的なやわらかさにつきましては、先ほど御説明しましたように、隅切り部分を曲線で処理することで対応したいと考えております。視覚的なやわらかさにつきましては、中央ペデ、その対応イメージ図の欄にあります、これが中央ペデでございますが、この中央ペデの上屋などの先端部分の角材を可能な限り曲線で処理することや、高欄のデザインを工夫し視覚的なやわらかさを演出することを考えています。

これが、高欄のデザインが下側の対応のイメージ図ですけど、高欄と言いますか、その赤で書いた線、要は転落防止の柵の柱でございますが、これに曲線処理をして丸みをつける。それから、丸い手すりをつける。それから、はめ込んでいるガラス素材のものにつきましては、ブラスト処理と申しまして、曇り状態の、磨りガラスみたいな状態にする形のところを、波形の曲線をつけたようなブラストでやわらかさを演出しております。

3ページ目をお開きください。これが、このたびのペデの配置図でございます。ここではペデの平面的な形が見ていただけたと思います。先ほど御説明しました人のたまり、真ん中のとこや隅切りの曲線処理のイメージを見ていただければと思います。中央ペデと東西ペデの取り付け部のたまり、ちょうど、これ、真ん中下の部分のところでございますが、たまりの部分は約15メートルの半円形とすること。約270平米のたまり空間ができます。というのを考えております。

このようなゆとりを持たせることで、単なる通行機能だけではなく、この場所から二葉山を望んだり、待ち合わせの場所になったりと、にぎわいが演出できるのでないかと考えております。

4ページ目をお開きください。これがペデ全体のイメージ図でございます。

広島駅の自由通路とつながる中央のたまりの部分については、開放的な空間を創出するために、東西ペデや中央ペデの上屋より一段高い上屋、屋根ですね、屋根としまして、

採光に配慮して、東西ペデ、これは新幹線口に平行するペデですけど、これと同様に幕材を使用することを考えております。また、ここは自由通路と直接つながる部分でございますから、自由通路の天井と同様に平和への思いをイメージした折りを取り入れた案としています。

5 ページをお開きください。

各ペデの断面イメージ図でございます。右上にありますのが中央ペデ、下段の左側及び真ん中が東西ペデ、左側が幅の広い中央付近の東西ペデでございます、真ん中が端付近になっております。そして、右側が西側ペデのイメージでございます。左上の位置図に示しております①から④の番号付近の断面イメージと考えていただきたいと思います。

続きまして、6 ページをお開きください。

これは、東西ペデ中央のたまり部分のイメージ図でございます。先ほど御説明しました天井部に折りのイメージが見ていただけると思います。

以上、簡単ではございますが、前回の御意見を踏まえ、対応のイメージについての御説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### ○岡河座長

ただいまの説明に対しまして、各委員の先生から御質問、御意見等ございましたら、お願いいたします。

幅が広がった。

#### ○藤井委員

御意見を取り入れてもらいまして、ありがとうございます。

#### ○岡河座長

よかったですね。本当に前に比べると大変機能的になった。

#### ○藤井委員

ちょっと、よろしいですか。3枚目の、ちょうど、矢印書いて四角でたまり空間を確保し、にぎわいを演出と書いてある。その左、ちょっと、すぐ真上の、こんな図がありますね、隅切りをカーブで入れてある。すぐエレベーターがありますね。これ何メートルぐらいあるのですか、1メートルか2メートル。

#### ○谷本街路課長

平面距離のことですか。

○藤井委員

ええ、すみません。北というか北東に向かって、このデッキのすぐ向こうにエレベーターがあります、1メートルぐらい離れたところに。

○谷本街路課長

はい。

○藤井委員

これ、入れてしまって、独立で、こうやらなくてもいけるんでしょうかね。もう少し広くなるんですけど。

○岡河座長

エレベーターも。

○藤井委員

エレベーターも、空間というか、そのデッキの中へ取り込んでしまうような。ちょっと、エレベーターの配置がここでいいのかわかりませんが。エレベーターの上下と、それから、その向こう側というか、北側に施設がありますね。階段があるので。何か、この辺をうまく空間の中とステップを連続させるような。どうでしょうか。

○若本委員

凹凸が。

そのまま、広がっていく。

○藤井委員

というのは難しいのでしょうかという。これ、平面形だけの部分で、ちょっとイメージがわかってないかもしれませんが。

○谷本街路課長

今の円の形状が、それぞれ柱、要は、杭基礎でもってサポートして、そこから配置円をとってございます。広げるとなると、その杭の位置を変えて伸ばす、それから、さらにエレベーターのところにも支える杭を打つ、もう一本増やす形であれば可能かと思いますが。

○藤井委員

でも、エレベーターはきっとまた別の支持をしていると思いますよ。別の杭で支持しています。一緒にさせたらどうですかというふうな、と思うんですが。

それと関連しているんですけど、6ページに1階部分の、2階ではなくて、2階はもう非常にうまく柱の配置をされているんですけども、1階部分は、これはデッキを支える

ためにこれだけ柱を入れているんですけど、結構、2階よりもはるかに、もちろん数は違いますけど、これ、6ページを見ると。

○岡河座長

今、1階の柱の配置が。絵を見ると、大変たくさん柱が1階に立っているようなパー  
スがあるんですが、どこまでがどうなのか、よくわかりません、そう言われてみま  
すと。

○藤井委員

それは、今、やっぱり目というか、視点が、大体、美観に注目して、2階の屋根部とか、  
人が集まるとか、そういう話なんですけど、1階はバスが入ってきて、人が行くとい  
うことを考えますと、やはり1階はすっきりしたほうがいいような気がするんですよ  
ね。

○谷本街路課長

斜めから見ている関係上、ちょっと不規則に配列しているように見えますけど、柱の位  
置につきましては、JRの出入り口の柱、要は、基礎の位置と合わせて平行につけるよ  
うにしております。

○藤井委員

だから、そんなにおかしくないんですかね。何か、すごく柱が多いなと思って。

○谷本街路課長

ちょっと多く見えるのは、私も何か多いなとは思いますが、実際、結構飛ばしてい  
ます。それぞれの、JRの新幹線口からの出入り口を阻害しないように、そこらも配慮し  
ておりますし、動線の阻害の配慮はないように計画しております。ちょっと見栄えが悪い  
のはすみません。

○岡河座長

で、いいですか。

さっきの点ですよ。一番大きいのはエレベーターのところということです。距離がど  
れぐらいなんですか、エレベーターの端からアールで、たまり場の、もとの円になって、  
内側の円ですよ、大きな。どれぐらいになるんでしょうか、今。

○谷本街路課長

ざっと見る限り、3メートルから4メートル程度。

○岡河座長

3メートルから4メートル、かなりありますよね。

だから、4メートル大きくするというと結構大変な話になるね、位置から見ると。上のほうのキャンティレバーがもう4メートル出ないといけないですよ。そうすると、まあ4メートルあれば、4メートルいるんじゃないかなという気がしますね、エレベーターから少し回ってくるというかね、距離が。恐らく、これは下のバスなんかの通路との関係もあるんですよ、恐らく。そうですよね。

○藤井委員

それで、できなかった。

○岡河座長

それが大きいんじゃないですかね。バスの通路との関係。下の道路幅を取るためにエレベーターの位置は、恐らく自動的にこの位置近辺でないといけないですよ。そうすると、まず、これありきですよ、このエレベーターの位置は。

○藤井委員

エレベーターはもう動かせないと。

○岡河座長

というか、もっと遠くなるんだと思う、動かせるとすれば。近くには取れないです。車道、エレベーター。

○藤井委員

6ページを見ると、エレベーター、ぎりぎりに入っていますけど。

○岡河座長

多分、これは斜めから見ているんで、こっちから見ると4メートルぐらい、多分、少し、距離があるという形ではないでしょうか。平面図を見ますと、ちょっとそのように見えますね。

中央ペデの歩道幅がどれぐらいでしたっけ、5メートルぐらい。

○谷本街路課長

6メートルで、真ん中の一本支柱でもたせようとしております。

○岡河座長

6メートルの幅で、真ん中の一本支柱、そしたら4メートルぐらいありますね。だから思ったより大きいですね。

○藤井委員

わかりました。



○岡河座長

いかがですか。

○若本委員

前回ですね、西側ペデで、ホテルグランヴィアからのガラス面からの景観ということも、ちょっと言われたんで、プライバシーがあると。それに対しての解決というのは、どうですかね。

○岡河座長

先ほどのガラスのブラストが、それもやるということですか。その機能も持たせるということですか。

○谷本街路課長

それもございますが、ホテルグランヴィアとは話をしております。こういった形に、ホテルの2階の喫茶店がございますけど、そこから見たイメージ図や、それから、逆に、ペデから喫茶店がどのように見えるか、そういったパースを特につくりまして、見ていただきながら調整して、このような形になっております。

○岡河座長

グランヴィアのほうからの要望というのは、みんなお聞きになりながら反映させているというふうでよろしいですか。

○谷本街路課長

随時調整しておりますし、当初、この位置自体がグランヴィアから4メートル離れたところにつけていただきたいというような御要望にも応えております。

○岡河座長

パースも、こっちも清田先生の御指摘のあった上向きのキャンティレバーとか、風が吹き上げて、雨がというのは随分、今度フラットになって、解決ができる方向に修正をされたのではないかと、そういう印象は持ちましたけどね。今日、清田先生来られていないので。

私は、9メートルの、1ページ目の東西ペデの上屋の構造イメージなんですけども、今、9メートルの幕を支えるということで、かなり加重が軽くなったというふうに思うんですけども、それは大変よいことだと思います。しかも、9メートルというと、この部屋でイメージしてもかなりの深さですから、光が入らないとかなり陰うつな中でというのが、恐らく回避できるだろうと。その幕構造で軽くして9メートルのスパンの梁は、今見た感

じでは、丸いパイプを加工したような梁のように絵では見えるんですけども、実際にはどのようになるか、ちょっと現状でお話ができる範囲で結構ですので、ちょっとお聞きしたいと思います。

○長大

梁の大きさなんですけども、これは鋼管の267.4ミリという。

○岡河座長

267。

○藤井委員

柱です。

○長大

柱は、同じく276ミリ。

○岡河座長

柱が276ミリ。

○長大

失礼、267.4ミリ、鋼管と同じです。

○藤井委員

その鋼管は、一緒ですか。

○長大

そうです。同じ大きさで考えております。

○藤井委員

これは上と下と、大体それぐらい。

○長大

基本的に通るところもありますし、東西ペデとJRの増築ビルの12メートル間隔の柱のところは残りますけれども、拡張したところは中央ペデでは足元は一本ですので、そのあたりは、バルコニーの付近は通らないです。

○藤井委員

別々になっていますね。

○長大

そうです。

○藤井委員

完全に言うと、すぼんとしたほうがすっきりしますが、何か、下にいっぱいあると、また、そこから全然違うところに入っているという。

○岡河座長

先ほどのところですね。

それ以外の両翼は、それぞれ上下ずつつながっているけど、丸いところの下のデッキを支える部分と上の部分、屋根を支えている柱は、ずれがありますよね。

○藤井委員

ずれても、それぐらいのデザインだったら、そんなおかしくないような感じにはなりそうな気はするんですけどね。

○岡河座長

そうですね。そこはバランス、どうしても一緒にはできない可能性がありますね、構造的に。けども、同じずれるにしてもバランスを考えて、ずれをある程度調整をうまくするかどうかというのは必要かもしれませんですね。

基本的には、でも円形だから、割と下とシンメトリーになるんですかね、柱は、大体。ちょっと1階の柱位置が、今、図面の情報でないですからね。

○谷本街路課長

シンメトリーになります。

○岡河座長

大体、そうですね、恐らくシンメトリーになるんですね。中心があるか、その中心の外側に同じスパンで両側に柱があるか、どちらかの形になるんですね。

○谷本街路課長

基本的には同じ位置なのですが、床面がちょっと出ている関係上2階の屋根を支える柱が、飛び出ただけというイメージを。

○岡河座長

2階の屋根を支える柱は、キャンティレバーの先から上へ上がっていくということですよ。

○谷本街路課長

位置的には、もう同じです。ある断面、ある方向から見れば同じ位置にはなります。

○岡河座長

これは、駅から真っすぐ出ますと中央ペデは一本柱ですから、そのセンターに柱がありますよね。それが、まず見えるわけですね、その内側は、一応、中央ペデのセンターと重なって見えるような位置に柱は立つというふうに考えていいでしょうか。そこは、一応、中心軸になるというふうに考えているんですね。

この場合には、視角も、当然の通行の、多分一番メインの通行のところになるので、その辺を結局配慮したということでの柱位置になっているということですね。

○藤井委員

そういった配置するのは、割と流れで、登り下りで。

○岡河座長

どっちかに分かれるということですね。

○藤井委員

両サイドになるとばらばらになりますけど、それはそれで、また動けるんですけど。大体、そんな感じで動くようになるんじゃないですかね。

○岡河座長

ここは出て、いろんな方向に割と行くわけだから、余り動かすのはないようにして、そうですね。

260の丸柱と270ぐらい残っていますか、267と、あと、はりの丸のパイプは、基本的には防錆処理はどういうふうな形になるんですか。かなりクリアな形なので、余り心配、見えないところがないので心配はないんですけども、基本的には耐久力というか、鉄部の耐久ですね。

○長大

今のところ、メッキを考えています。

○岡河座長

亜鉛のどぶ漬けですね。

○長大

はい。それで、溶接で全部つないで、それを今、フッ素樹脂塗装を前提としています。

○岡河座長

フッ素樹脂塗装、メンテナンスフリー塗装にするということですね。

○長大

そうです。原則的に、そうなんです。そのように考えています。

○岡河座長

幕部分も、どういう。メンテナンスですけど、幕の汚れについて、汚れるか汚れないかで随分印象が違うものですから、どういうことを今考えておられますか。

○長大

幕はガラス繊維で、それにフッ素樹脂を被覆させて、その上に最近光触媒という処理を施しております。ですので、雨が当たることはまず基本的に汚れを防止することですので、雨が流れるように極力緩勾配のところができるだけできないように、流れるように、たまらないように、ディテールを今考えております。それによって、基本的にもう清掃はしなくてもいい、雨で自浄作用があって、メンテナンスができるように考えています。

それでも、樋の部分なんか葉っぱがたまったりするといけませんので、一部は、上部に上がって点検できるように、その辺のことも含めて配慮しています。

○岡河座長

ちょっと、ついですが、さっき樋の話が出ていましたが、JRの建物との間の雨樋は、どういうものでおつくりになって、どういうふうな処理をされているのか、ちょっとお聞かせください。

○長大

どういうものというのは、材料でございますか。

○岡河座長

材料です。

○長大

材料は、今、ステンレスを考えています。

○岡河座長

ステンレスを。ステンレスのボックスということですね。

○長大

そうです。それで、比較的片勾配ですんで大量の雨水が入りますので、その辺の断面、流量を計算して、十分なゆとりをとるようにしています。

それとあと、JR側さんは、JR側さんでまた樋をつくって、その辺が重なりつつ、そ

それぞれの責任に対応できるようにということです。

#### ○藤井委員

いつも思うんですけどね、そういうのは絶対縦割り、分かれるんですよ。何か一つにして、合理的にいけそうな気がするんですけどね。

いや、ベイブリッジの展望台だってそうです。全然別の基礎をつくって展望台をつかったの、あんなもん預ければ済むことじゃなかったですか。

#### ○岡河座長

本当はJRのところに少し小さいひさしを出してもらって、それで、共有のこちら側のほうに落とすような処理がもしできれば、割とうまくいくかなという気もしますので、何か、その辺、もしも、これからJRさんとの話の中で共有できるところがあれば、可能な限りデザインと一緒に、もしもできるということならされたらどうかと思います。

意外に今は雨の量が物すごく不測の事態というか、場合によっては大変な雨が降る。これだけ交通が、逆に大雨が降ると交通のところはストップしたり、人がすごくたくさんになる場合がある。それで、ざあざあ入り口のところで雨漏りがしているような、そこを通り抜けなきゃいけないような状態というのは余りスマートな状態じゃないと、何としても避けたいということで。その辺の雨の、恐らく法的にはあるんですけども、施設としてはそれ以上の配慮もしなければいけないのではないかというふうに、実は、最近は感じているんですよ。

1時間に100mmは大災害でありますけど、でも、やっぱり、それぐらいのことも、これからつくるものはある程度考える必要があるのかなと。特に入口の、要するに人が下を通るところについては、少し、その辺で配慮をある程度していただければというふうにはちょっと思います。

伏見先生、どうですか。ちょっと、遅れてこられましたけど。

#### ○伏見委員

申しわけありませんでした。

#### ○岡河座長

いえ。一つは、屋根が布屋根、幕屋根と言って、屋根そのものの幅が随分広がって。前は4メートル50センチぐらいで、大雨のときにはひさしの役に立つか立たないかというような危険があったんですけど、今、最大幅9メートルということですので、かなりの広い部分が覆われているんですね。それから、材料が変わると。

## ○伏見委員

機能的にも、それから、見た目のボリューム、上側の風を感じられるようになったということで、構造的にも、通る人たち、それから、そこを景観として見る、ビルの上から、それから下から見上げる場合も、景観として心地よくなったのではないかという感じはします。

## ○岡河座長

そんな気はしますね。何か軽くなったという。僕は、軽くなった、とにかく荷重のいろんな性能が非常によくあるということですね。それから、危険が少なくなるということ。部材が落下することがなくなるという意味では、こういう人がたくさん下を通るところというのも、開放としては、非常に理解できる開放になったんじゃないかというふうに思います。

## ○伏見委員

景観として、見た目がよくなったということとともに、通る人たちにとっても安心感を与えるという、心地よさを与えるという。

## ○岡河座長

そうですね、光が透過するので、例えば、9メートルのアルミのパネルの下に屋根を想像すると、かなり陰うつな感じがするんですよ。それに比べると、光が入るといのはかなり軽快感というか、本当に歩行者にとってはプラスのイメージだと思いますね。

## ○伏見委員

構造的にも無理がなく感じられます。

## ○岡河座長

部材が軽くなりますから、いろんなところがプラスになってくる。特に円形のところの先は、キャンティレバーの先ですからやっぱり乗せる物は軽いほうがいいんだよね、どんなことをしても。だから、そういう意味でも、こうして合理的な開放になっていく気がいたします。

ちょっと、私、細かいことなんですけれども、この幕屋根の先の鋼管の、鋼管と幕の取り合いのところなんですけれども。私がちょっと気にして、こういうものの印象で、丸いところが、例えば、白い、先ほど亜鉛のどぶ漬けをしたものに白いペンキに例えばなるとすると、ここに雨だれが、多少汚く雨だれが見えるときがあるんですよ。その水切りの仕方、ちょっとディテールをもう一つ考えていただくと。つまり、丸がそのまま、実は丸

パイプの白いやつは水平というのは結構汚くなりやすいような印象を私があるものですから、そこで、幕との取り付けのところが金物処理とかと一緒に考えていただかなくちゃいけないことになると思うんですけども。雨だれの処理ですね、一番先の、大体水は後ろに流れるんですけども、先端の雨だれの処理について少し御配慮をいただくと、長い目で見て汚くならない白い幕の建物ということになるのではないかというふうに思いますので、少しディテールの細かいことなんですけど。

**○藤井委員**

これ、1ページ目の下の写真の左の端、右側に雨どいが出ていますが、そのところのディテール。

**○岡河座長**

そうですね、とりあえずのところのディテール、雨どいのところは下からは余り見えませんが、それでも大水のときの処理の、雨どいの大きさとかの関係の、恐らく、少しお考えになると思うので。先っぽのほうは、一般的に一番イージーなやり方というのは、幕をとめるのにロープでとめるんですが、非常に汚い結果になるんですよ。特に戸外ですと、そういうところに排気ガスの中にある汚れが目立つ。それを、ちょっと雨だれが下に落ちるような、要するに、丸いパイプのところに当たらずに少ししてやると、恐らく、何かきれいに、割とメンテナンスも。

**○藤井委員**

私、ちょっと、幕がどれぐらいの剛性があるのかわかりませんが、このパイプを少し張り出してしまうと。

**○岡河座長**

幕そのものは、剛性がないですから。

**○藤井委員**

幕はもうないんですね。

**○岡河座長**

だから、その処理を、金物の処理になります。

**○藤井委員**

グラスファイバーは、そのままにして。

それは、そんなに。



○長大

それも、簡単には曲がりはしませんけども、それほどの剛性はないです。

○藤井委員

そうですね。はい、わかりました。すみません。

それと、先ほどの雨どいの最終的に水を落としていきますね。縦どいのところですか。そういったところは、やはりステンレスで。

○長大

はい、原則的には、今、ステンレスを使おうと。

○藤井委員

ああいったところから、結構、実際橋なんかですと、いつも、あれが腐って水が漏れて、大体、不具合を起こすんですね。詰まってというようなことが多いですね。

○岡河座長

済みません。縦どい、失敗したことがありますて、学校で金属製の縦どいをわりとやわいやつにすると、学生が蹴るとへこむんですよ。いや、それでね、やっぱり雨どいの余りやわいやつを人の蹴るような位置にすると、不測の事態、それは何100人に1人が蹴ったのかもしれないんですが、やっぱり、あそこは金物じゃない物にしてくれと、ちょっと、そう思いました。

ここにつきましては、雨どいは、縦につくる分については、恐らく、JRの柱とピッチと関連させながら落とされますとですね。そこの下の部分については、人が触われたり、いたずらをする人はめったにいないと思うんですが、どういう位置関係に、これはなりませんですか。

○長大

構造の柱の、ペデから言うと原則的に裏側、樋の関係からすると裏側になるんですね。

○岡河座長

裏側ですね。柱の後ろ側ですね。

○長大

後ろ側で、収めようと思っております。ちょっとJRさんのビルとの取り合いというものもありまして、その辺。

○岡河座長

そうですね。

○長大

原則的には、柱の前に出ることはございません。後ろです。

○岡河座長

後ろですね。柱の後ろで。

○長大

そういうことで。

○岡河座長

ということは、柱のこちら側から蹴ろうと思っても蹴れないというふうに、一応、理解していいですね。

○藤井委員

それと、先ほどのあれ、フッ素系の。

○岡河座長

フッ素、フッ素系の。

○藤井委員

塗料とおっしゃってましたよね。これ、メンテフリーということはあり得ないと思うんですけど。

○長大

建築に使っているもの、私、建築の人間なんですけど、土木の仕様と若干違うかわかりませんが、鉄部に塗るのは一番、今、耐久性があると言われているのは、フッ素系樹脂でありまして、20年。

○藤井委員

それぐらいでしょうね。それだったら、わかります。

○長大

ですから、メンテナンスフリーというのはいさそでして、一番メンテナンスの期間が長い塗装ではあることは確かです。

○藤井委員

余り私、詳しくないんですけど、亜鉛どぶ漬けの上にフッ素を塗っているんですね。あれは、いわゆるブラストかけて素地調整した分と差がないんですね。

○長大

付着強度が。

○藤井委員

剥離しやすくなるんですね。

○長大

これまで何例かそういうことをやっていますけど、特に、それほどの付着強度に問題があるということはありませんけれど、おっしゃるように、ブラストかけてやらないと、目荒らしができないと強度は足りないですけど。

○若本委員

にぎわいの部分で、少し確認させてください。

○岡河座長

はい。

○若本委員

ここ、やはり駅前の商店が並んでいますよね。何か、いろいろバザーをするとか、こちらあたりでお祭りをするみたいなきの、要は、サイン計画であるとか、例えば、横断幕とか、万国旗が並ぶとか、にぎわいになったときのサイン計画とか。

あと、もう一つは照明ですね。例えば、幕材に対して、建築のほうで見えない形の照明で白くアップすとか、夜間のにぎわいが、どういうのがあるとか、少しイメージがわかればなと思います。

○岡河座長

そうですか。そのとき外側の幕屋根を支える柱については、例えば、そこに附属的に商業施設の宣伝であるとか、それから、イベントなんかの広報の、いろんな、そういうものが取りつく可能性はあるんですか。

○若本委員

ポスターとか。

○岡河座長

ポスターとか、旗を下げたりと。割と駅の中は、ちょっと、この前、岡山駅の話をしなすと、岡山駅の自由コンコースは、イベント用の旗を取り替えれるようにできているんです。たまたま、あそこで展覧会をしたことがあって。それは使えなかったですけど、僕ら予算がなかったから。でも、いろんなバーゲンセールのとときとか、そういうときには、そこで何らかのつり物をして、小さなつり物なんですけどね、で、広報したり、イメージとか、にぎやかなイメージをつくったりとか、そういうことをしているのを、ここでは

されるかどうかですね。

○谷本街路課長

基本的には道路でございますから、そう大幅には。J Rの敷地内であれば、いろいろと途中で看板、広告とかがありますが、一応、道路でございますから、そう派手にやることは、ちょっと難しいかなと。ただ、全くできないというのも、否定するものではございません。

○岡河座長

ということは、何らかの、そういうことも考慮して、これからJ Rとも一緒に協議していくということですか。J Rとか、それからグランヴィアもそうなのかもしれませんよね、わからないですけどね。

○谷本街路課長

細かいサイン計画を含めまして、検討してまいりたいと思っております。

○岡河座長

ということですね。

○若本委員

例えば、これは、J R側のお店が並んでいるので、デッキに直接出入りできるというイメージなんでしょうね。例えば、そこに飲食の店があって、ちょっとテーブルとかも外に出してみたいなイメージもあるじゃないですか。その場合、ここは道路だからだめだっていうような感じなんじゃないかな。

○谷本街路課長

今、そこに、1 ページ目の右上のほうにあります矢印、これが、こういったところに新幹線増築部位との出入りが、こんな感じでありますよというようになっています。

○若本委員

これが、通路ということですか。

○谷本街路課長

通路です。

○若本委員

お店側から出入りするということも。

○谷本街路課長

お店からの出入りかどうかはわかりませんが、出入りできると。基本的には、やはり

先ほど申しましたように道路でございますから、とりあえず、ベンチを置くと、歩行者空間を確保できるのであれば可能かもしれませんが、今のところは置かないところでスタートしています。

○若本委員

例えば、クリスマスのイベントとか、七夕とか、そういうのも、あまり派手にはできないということ。

○谷本街路課長

にぎわいの演出空間においては、ある程度必要通行よりも多めに取っていますので、何らかのことは可能かと思えます。

○岡河座長

9メートルぐらいあると、大体出る可能性があるところですね。

○藤井委員

広島に、クリスマスツリーとかが。よくありますよね。

○岡河座長

イベントのときはね。

○藤井委員

出したっていいよなとかは。

気はします。

○岡河座長

それは使い方を含めてだから、これから協議を。JRとJRに入られるテナントと、さらに協議をしてということになるんでしょうね、多分。でも、楽しいデッキになれば、それにこしたことはないでしょうから。何か、多少、これだけのいろんな手当てをしたわけですから、ただの通路でなくて、何となく道の私的な使い方みたいなことを多少可能なようなデッキというのは魅力があることはあるような気がしますね。

まあ、でも、それは本当、JRとテナントさんと一緒に協議をされて、ものだけではなくて使われ方についての何か魅力も、もしもつくれるということならば、割と積極的にお考えになってもよいような気はいたしますよ。杓子定規に、とにかく通路なんだからというより、何か新しい、ここはまちの空間、新しい駅の北側のまちの、やっぱり一部の重要な場所になるような気がするんですよ。

そういう意味では、いわゆる交通用のデッキとは少し違った雰囲気だし、使われ方も

あるという、そういうデッキが方向性としてはよいかもしれないという印象を持ちます。

あと、よろしいですか。ブラスト処理の形の問題なんですけれども、今、ウエーブも悪くはないんですが、これ、いかがですかね。本当は、もう二、三案、少し考えていただいて、ちょっと伏見先生なんかどう思われますか、ウエーブも悪くはないと思うんですが。

○伏見委員

ちょっと、ピッチが狭い。

○岡河座長

ピッチが狭いですね、実は。もう少しおおらかでもいいかなという感じはしますね。

○伏見委員

そうです。

○岡河座長

何か逆にピッチが狭いと、少しノイジーな感じがしてね。ウエーブなら少しおおらかにされるとか、同じピッチではなくて多少揺らぎがあるとかいう、少し自然の中の、いわゆるグラフィックなパターンが余り出過ぎると少しかた苦しい感じになるので、ちょっと、その辺は、まだこれからいろいろ検討をしていただければと。

○伏見委員

検討いただければいいと思うんですけれども、なぜ、ウエーブなのかとか、広島ならではの抽象表現ができたらいいなというのは思います。

○岡河座長

これが、なかなか難しいです。何か物語があるといいです。でも、特に上から見た平面図は丸があることで、何となく、ちょっと鳥みたいな感じなんです。しかも、布を使うということで、そういう何か、ちょっと飛翔感というか、飛ぶ感じは悪くはないのではないかという、ちょっとイメージを持っています。

実は、この北側のペデストリアンデッキの先は、かなり恐らく高層の建物がこれからできるんだろうと。そうすると、上にいる人たちからこの広場はかなり見られる場所になって、上からの視覚的なことも、そういう意味では割とうまく配慮ができたデッキになりつつあるのではないかなという気がしているんですよ。

でも、先ほど言われたように、少しの形なんですけれども、これ感覚的に難しいんですが。

○伏見委員

広くするとツーパターンつくらなきゃいけないから、高くつくのかなと思いつつ、ちょっとピッチが狭いなと思ったのと。

○岡河座長

ちょっとピッチ狭いよね、何か。

○伏見委員

はい。それと同時に、山並みを表現するとか、そういうのであれば、グラデーション、ステンドグラスのグラデーションをちょっと使っていただいて、奥行きをこのグラス中に出していただくとより効果的ではないかというふうに思ったりもしました。

○藤井委員

なるほどね。これ、ガラス。

○岡河座長

ガラスです。強化ガラスで。

○藤井委員

強化ガラス。

○岡河座長

これ、フィルムじゃなくて、ブラストですか。

○谷本街路課長

一応、ブラストと考えていますが。

○伏見委員

耐久性を考えるとブラストのほうが。

○岡河座長

ほうがいいよね、フィルムは中で空気が膨らんだりしてトラブルになる可能性がありますからね、中に水がしみこんだりして。そら、ブラストのほうが、私も長い信頼性がある処理の仕方という気がします。

○藤井委員

これ、デッキはRCでしたね。

○谷本街路課長

メタルでございます。

○岡河座長

実はブラストというところで、エレベーターはガラスがきれいだと思うんですよ。それで、でも、エレベーターもうまくブラストを使って、いわゆる透明だけじゃなくてということも少しバランスとして、ガラス部分のバランスですね。手すりのところのガラスとエレベーターのシャフトのところのガラスを、もし可能ならば、少し検討していただいて、よい雰囲気になれば、それはそれで一つおもしろいかもしれないという気がします。

パターンであっても、例えば、ブラストが何か所かあって、少しかすんだようなイメージとか、かすんだようなイメージをエレベーターシャフトではつくって。水平のところはちょっとおらかな揺らぎが何かこうあるような、そういう割とちょっとデザインが、さりげないようなデザインがしてあると、いわゆる、こういう型ですよとか、こういうパターンを印刷しましたみたいなのよりは割とよいかないという印象は持ちますけれども。

検討させていただくと、ガラス部の、先ほどブラストの話が出ましたので、ガラス部についてそれなりの配慮をしていただいて、最終的にデザインを決定していただければ非常によいのではないかと思います。

○藤井委員

高欄は、高さって別にないんですか。

○岡河座長

ええ。

○藤井委員

高欄の高さ。

○岡河座長

これは、法的とか、いろいろ。恐らく取り決めがあるんだと思います。

○谷本街路課長

1,100。

○藤井委員

決まっているんですか。

○谷本街路課長

いいえ。

○岡河座長

1,100は、建築の何か問題で、1,100ないと後で怒られますよね。1,100ないと、やり変



えろと言われるぐらい厳しいですね。

○藤井委員

それが、さっきのガラスのブラストとか、そういうデザインにかなりきいてくるような気がして。それで、2ページ目ですと、例えば、ガラスはないけど、ここにワイヤーを張っているんですね、落ちないように。グリーンの線で。

○谷本街路課長

グリーンの線は、断面図を見ていただければわかります。

○岡河座長

手すりも、3段になるわけですね。

○谷本街路課長

3段と。

○藤井委員

わかりました。

○谷本街路課長

バリアフリーも含めまして。

○藤井委員

ワイヤーが中に張ってあるわけじゃないよね。

○谷本街路課長

じゃないです。

○藤井委員

はい、大丈夫です。

○岡河座長

よろしいですか。

ガラスをとめるのは、金物は縦の両側で、四方からガラスは。上下はなしで、両側の金物だけでとめられるんですか。

○長大

上部と下部。

○岡河座長

上部と下部、上と下に金物が入るんですか。

○長大

そうしております。

○岡河座長

なるほど。

○藤井委員

上下に一本ずつ入りますね。

○岡河座長

そうですね。デザインから言うと、上下なしでガラスは怖いかな。

○谷本街路課長

支柱を使って、こう。

○長大

支柱は怖いと思います。やっぱり。

○岡河座長

怖い。強度のことも、万が一の事ありますからね、高層建築ですから。そうすると、やっぱり上と下に一応金物の線が入るんですね。これはステンレスのような錆びない材料でとめるということですね。

○谷本街路課長

はい。

○藤井委員

細かい話なんですけど、中央ペデから中に、中と言うか、1階のほうに下りますよね。その階段なんかの、やっぱり何というのかな、歩道橋にあるような、何かこう味気のない階段、味気のない階段という言い方、ごめんなさい。どう言えばいいかな、鋼板でこうやっているだけというのではなくて、ちょっと裏をケアするとか。

○岡河座長

そうですね。

○藤井委員

何か少し、そういうのを配慮いただければと思いますね。いつも下りて回った途端に、階段見ていて汚い感じがしますね。

○岡河座長

汚い、要するに靴で踏むので、そこに泥が落ちている。その水で、回って、それで行

ってという感じが、割と階段のイメージあるんですね。

○藤井委員

何かちょっとそういう。

○谷本街路課長

一応、桁カバーみたいなものをつけるようには、前回ありましたので、配備しております。

○岡河座長

これ、デッキの上の舗装の仕上げは何を使っているんですか。階段も含めて、今は。

○谷本街路課長

今、タイルを考えております。

○岡河座長

階段部分もタイルを階段の段上に張るなり、取りつけるというふうに考えているんですか。

○谷本街路課長

同じような素材でいくというふうに考えています。

○岡河座長

要するに、階段とほかのデッキ部分は、同じような材料でつくるということになりますね。ですから、階段のとこだけ突然鉄板になるとか、そういうことではないです。

○藤井委員

タイルだと滑るというのはもちろん、その。

○岡河座長

これは恐らくタイルの形状いろいろなのがあって、それは恐らく基準もあるんですけど、公共のところに張るタイルというのは。どれぐらい滑らないものとか。

○藤井委員

デッキのところのタイルと階段のタイルは違うんじゃないかな。

○若本委員

今、東側ペデもタイルですか。

○安野技師

タイルです。現況もタイルです。

○岡河座長

そうですね、左側もそうですね、タイルですよ。

○藤井委員

それに合うような感じがあるのかな。

○岡河座長

逆に、今、東側のペデに大体合わせるような形になるんですか、ここは。

○谷本街路課長

自由通路も含めて、それから、周りの景観も配慮しながら、全体的にバランスがとれるように考えてはおります。

○岡河座長

やっぱり自由通路も、今ね、あれで下のところをどうするかというのを検討していただいたりとか、割と白っぽかったんですが、汚れないようにするとか、いろいろそういうことでしたね。それは、やっぱり三つの、今、それを、話し合いをうまくする機会を設けて決定をされるということですね。やってみたら聞いてないよということではないというような形で進めていただければと思います。

○伏見委員

階段の踏面ではなくて、壁側のところに。

○岡河座長

壁側というのは、蹴上げというところですか。

○伏見委員

はい。蹴上げのところに、よく美術館なんかでは、代表的な作品とかを上に乗るときやあってあるんですよ。それがよその美術館、国でも大変意欲的にやって、広島で代表的な原爆ドームとかでも、そういうものでも壁側のところに絵描けるタイルで印刷できないかなというふうに思うんですけども。いかがでしょうか。広島で観光地を宣伝するようなものがもっとあればいいなという。

○岡河座長

どうなんだろう。

○若本委員

モザイクタイルで絵を描くみたいなやつですね。

○伏見委員

そうですね。タイルでやれるならやっていただいていた方がいいかなとも。

○藤井委員

下から見ると面で。ステップが全部で、ちゃんと。

○伏見委員

そうですね。海外の美術館では。

○岡河座長

耐久力と含めて、うまくいけば、何かの可能性はあると思います。恐らく、美術館みたいに、割と来場者がどんなに来ても静かに一応見るところと、これはどんな人が通っても大丈夫にしなければいけないんですよ。その辺のちょっと差があつて。

○伏見委員

そうですね。駅のそういうところにも結構やってある都市が多いのでね、どうかなと思ったんですけども。お金のこともありますので。

○岡河座長

ちょっと、イメージがそこまで、こちらのほうは、コンコースのところで小さいところでうまくモザイクを使うと、たくさん使いすぎるといふ。ここは、僕はもっと安全性とか、耐久性とか、メンテナンスの余り要らない、コストがかからないとか、そういうものをまず前提にして、その中で、例えば、機能的な問題として広いほうが、雨がかからないとか、そういう部分から詰めていって、一番最後に、もちろん芸術的なそういう顔としてのものもあると思うんですけども。

どうですかね。ちょっと僕は少し、それ、うまくいけばいいんだけど、そこで失敗してしまわないかというイメージがあるんですよ。モザイクを外れて、これが、がたがたになったら、どうするんだみたいな、人が通っているのに。人が通るところだから、実は補修とかも割と大変なんです、通行止にできないので、みたいなところで。できるだけ何か、どちらかという途中でトラブルをないものをつくるというのが、こういう交通の絡んだ公共のものだと思うんですね。美術館なら、恐らくなるんですけど。

そういうこともあるということで、少し、やっぱり新しい顔ですから、何らかの形で、僕は、特に中央の一本柱のところについては、少しそういう部分があつても。両側はどちらかという、向かって左側がグランヴィアさんとやっぱり関係の話し合いでいろんなことを考えないといけないので、今もうできているものについては、できているものがある

意味では受け入れるということしか方法はないので。

真ん中の一本柱の、このメインの中央のペデ、これについては、いろんな、まだまだ使い方や照明や、それから真ん中の柱の、さっき言ったような一つの芸術的な、そういう問題も僕は十分検討をする余地はあるというふうに思っているんで。

特に先ほどの照明についてのことについてのお話がなかったんで、少し、特に僕、中央ペデのこの照明なんかとか、さっき、何か柱に変なビラを張るやつはいないと思いますが、逆に言うと、うまい広告がつけられるというのはあるんですかね。ちょっと照明のことと、それから、少し、そういう付加的な広報とか、アドバタイジングの機能を考えておられるか。

**○谷本街路課長**

まず、付加的なものにつきましては、今、大まかなものが決まって、細かくつめていくようになりますので、今後、関係機関と調整しながらやっていくことになると思います。

**○岡河座長**

はい。

**○谷本街路課長**

照明につきましては、

**○長大**

前回もお話がありましたとおり、柱の柱頭部を、少しリブを4方向に出して、花びらみtainなイメージを。

**○岡河座長**

リブを4方向に出して。

**○谷本街路課長**

はい。そのリブのところうまく照明を組み込んで、アッパーライト的に、それを浮き上がらすようなことをしたいというふうに。

**○岡河座長**

下から、要するに、屋根の下面を照らすということですね。

**○谷本街路課長**

その柱頭部だけ、少しスポット的に照らしたらどうかということです。

○岡河座長

下から照らしたら、かなりきれいだと思いますよ。直接照明じゃなくて、下から見たときなんか、間接的な照明で。

○藤井委員

間接照明はいいですよ。

○岡河座長

それは、きれいだと思います。

○藤井委員

明るさが格落ちするのが、ちょっとクッション、私は好きなんですけどね。

○岡河座長

これ、24時間、実は照明がついている状態になりますよね、失礼、夜は。朝までついている状態になりますよね。

○長大

全体照明は、今、高欄のところに照明を組み込んで、それで全体の床照明、照度をとろうと、それプラス今申し上げた柱頭部のスポット照明的なものを、そこに付け込むようにして。

○岡河座長

幕のところは、照明はどういうふうに。

○長大

幕のそこは、原則的に、やはり前から先生がおっしゃってるように、上に一度光を出して、幕に反射させて、その反射光で全体の明るさをとるというのを理想として考えていますので、それで今いろいろ照明器具の照度計算をして、それが可能かどうかということも含めて検討を。

○岡河座長

そうですか、はい。

デッキのレベルで、例えば、ポスターを取りつけないとかいうと、実は割と怖いんですよ。風が吹いたときに飛ぶとか。だから、余り室内と、例えば、こっちの内側の自由通路の部分だと、かなりそれは安心の部分があるんだけど、外はやっぱり外で、場合によったら台風のときには大変な風を受けるんですね。だから、付加物というのは割とないほうが、こういうところでは、恐らく、よいような気がしますね。やっぱり安全性とか、そういう

ことが、まず外の公共の通路にはやっぱり最優先という考え方で。そういう気がするので。  
どうですかね、ほかには。細かいことでも結構ですので。

○藤井委員

もう大体。

○岡河座長

そうですか。

そうですね、僕も、大体。伏見先生、どうですか。せっかくですから、きょう。せっかくですから、本当に。

○伏見委員

ここの、こういう広告物もいつも感じる事なんですけれども、先生方がおっしゃってくださっているようなので、やはり後づけのサイン計画とか、後づけのアドバタイジングとか、そういうものが、とってつけたようにならないように、やはり、ある程度バランスを考えながら進めていただくというのが、並行して、いいのではないかというふうに思いますので。そこがちょっと後づけで、今はよくても、最終的にどうなるかということですね。

この場合は、気になりますので、次回は、その辺のところも、もう一遍出てくるのがいいかなと思います。

○岡河座長

これ、最終的には、サイン計画は、最終的にはどういうふうな方向で決定をされて、どういうところと調整というか、必要なかということがわかります、今の時点。サイン計画というのは、私もよくわからないのですが、でも、何か、恐らく、ここは幾つかサインがついてくるのではないかと思うんですよ。恐らくね。まだ、ちょっと具体的にはイメージがないんですけども。

○若本委員

観光案内的なものも、ありそうですね。

○岡河座長

多分、それとか、こっち方向が。

そうですね。

○谷本街路課長

サイン計画につきましては、日ごろから広島駅を利用される方もいますけど、海外や他



都市から初めて広島を訪れられる方にも、やっぱりわかりやすくというのが必要かと思えます。また、見やすいもの、見えやすいものとか、そういったものも必要があると考えております。

ということで、今後、駅前広場、下の広場も含めて、その再整備も含めて、あわせて検討を進めていくように考えております。

**○岡河座長**

そうですか。例えば、これは言語ですと、例えば、中国語とか、韓国語とか、英語とか、そういうものもサイン計画の中に入ってくる可能性はあるんですか。

**○谷本街路課長**

その辺は、また、そういう観光部署との協議の中で話が進むようになると思いますし。

**○岡河座長**

なるほど。それもね、つまり、きちっと、それなりの方針で考えておやりになるということがやっぱり大事なことだと思います。今のとこどういう形がどうのこうのというのもきちっと視野に入れた形で、この場所では、サイン計画や、それから、いろんな指示版ですよね、そういうものも、ぜひ加えていただいて、そういう意味で、うまくコミュニケーションをされながらやっていただきたいと思います。

そのほか、ほかにありますか。まだ、あとね、でも15分ぐらいありますけども、あるので、せっかくですからね。

**○若本委員**

いろいろ決まってきましたので。

**○岡河座長**

僕が、一つ、弱視の方たちの実は点字タイルは、この上でも一応継続して敷設されるというふうに理解をしてよろしいですか。円のちょっと黄色で書いてあるの、多分そうだと思うんですけども。

**○谷本街路課長**

弱視の方に配慮して、輝度比の黄色と、それを際立たせるために周りは黒とか、輝度比を際立たせたものは全てつけるように考えております。

**○岡河座長**

ということですね。いわゆる一般的な公共の道と同じようにするということですよ。

○谷本街路課長

はい。

○岡河座長

これ、最後の色の決定とか、どこでどういうふうにするんですか。舗装の、全ての材質とか、それから、さっきの黄色の今の弱視の方のは共通で決まっていますよね。形状も、色も。すると、それ以外の、ここで新しく何らかの形で色なり、それから、材質の滑り方とか、そういうものを判断するようなものの最終的な決定というのは、どこでおやりになるんですか。

○谷本街路課長

やはり先ほど申しましたように、新幹線ビルを増築します。そのデザイン等もございませし、周辺施設もどんどんできてくるでしょうし、わかる範囲内ですけど、その辺との調和を図れるように。もちろん中央、自由通路、そういったものも踏まえて、最終的に関係部署を含めて検討していきたいと思っております。

○岡河座長

そうですね。僕は一応やっぱり自由通路とのバランスを一番大きな問題として考えていただければ、割とうまくいくのではないかなという気がしますので、そういうことを少し考慮に入れて、これからやっていただければと思います。

藤井先生、どうですか。あとまだ、別にございませんか。

○藤井委員

思うんですけれども、身障者の方用にスロープをつけますね。

○岡河座長

身障者用、ここでは、スロープじゃなくてエレベーターが。

○藤井委員

いや、これ違いますか、これスロープですかね。

○岡河座長

これ、スロープはつくんですか、恐らく。

○藤井委員

スロープはないんですか、エレベーターだけですよね。はい、わかりました。これ、スロープかなと一瞬思ったものですから。

○岡河座長

多分、物理的にも恐らく無理、スロープは。エレベーターのほうが恐らく身障者の人も楽なのじゃないかな。

○藤井委員

あのスロープは何の役にも立たんと。

○岡河座長

そうですね。だって、両側で、こうやって、あの坂を登るのは大変ですね。

○藤井委員

自分で一度上がってみろと言ったら、あなたたち上がれるのかと。

○岡河座長

そうだと思います。

○藤井委員

相当な腕力を持っている人じゃないと。

○岡河座長

付き添いがちゃんと来ている人は大丈夫。

○藤井委員

いや、ごめんなさい、ちょっとスロープかなと一瞬思ったところがありまして。

○岡河座長

はい。ただ、そのパイプの素材、今、手すりの材質は何でお考えになっているんですか。  
今、3本。

○長大

手すりは、アルミを考えていますね。

○岡河座長

アルミニウムですね。じゃあ、色はシルバーと、そのままいくの。

○長大

アルマイト。

○岡河座長

アルマイトの発色を。

○長大

発色をかけるか、まだ、そこは決まってない。

○岡河座長

そうですか。一応、材質はアルミニウムですよ。

○長大

はい。

○岡河座長

ちょっと、僕は、6ページのですよね、実はアルミニウムって電食が怖いんですよ。外側に使う今までの経験とかで、ほかの金属とくっつくと腐食があったり、電解腐食した経験が実は私あるんですけど、アルミのサッシで。なぜか、こんなに錆びたのはどうしてかと思うと、サッシをとめる鉄筋がどうも当たっていて、そこへ水が回り込んで、水と鉄で、アルミで、要するに電解腐食をした。一応、外でこういうふうに、基本的には雨が当たるということ想定したようなときにお使いなら、アルミニウムのとめ口というのは、どういふふうにされるものなのですかね。

○長大

一つは、アルミの地がそのまま出ないように塗装をかけて、表面はコーティングする。それから、あとは、溶接なんかをしますと、やっぱりその部分、コーティングがとれてしまったり、そういったところの処理とか、そういったところの接続のディテールみたいなものを工夫するとか。

○岡河座長

ディテール、直接つかないようなものにするということですね。

○長大

ただ、ゴムパッキンを。

○岡河座長

パッキングをかますとか。

○長大

メタルとメタルとだと、おっしゃるような、アルミとステンレスがくっつくとか、そういうのは、逆にしないようにするとか。

○岡河座長

それは、一般的に割とされているものなんですか。

○長大

はい。

○岡河座長

そうですか。

○長大

一般的には、それは常識だと思う。

○岡河座長

今、もう常識になっているということですよ。

○長大

ただ、施工とか、取り合いによっては、そういうことも、ややもするとおきている部分から、そういうのが。

○岡河座長

なるほど。それは、現実的には管理のレベルでの、そのところでの、ちゃんときちっとそれが注意深く施工されているかどうかというレベルであるという考え方ですね。

○長大

止水の問題が二次的にはあるので、その辺を十分に考えて。

○岡河座長

なるほど。

○藤井委員

やはりすぐ乾くという部分が重要ですかね。水が行かないという。

○岡河座長

何か、やっぱり意外なところで、そういう、僕、経験があるので。

○藤井委員

電食は起こりますから。

○岡河座長

建築だと、まだ個人のレベルだから、そんなに、すみませんというぐらいで。だけど、公共になると、そういうのって、まず経験がないものですから、これ初めてアドバイザー会議を、土木系の公共でということ。ちょっと質問はそういうことで、私が知らないものですから。

じゃあ、質問、もう一つ、よろしいですか。

デッキのところ、たまりのところ、その上に、一番高いところに半円形のテントを折った、折ったというか、大変魅力のあるデザインだというふうに思うんです。その先端部分

の、6ページのパーズで見たときの先端部分というのは、これは構造的なものなんですか、それとも、ここで雨どいのようなものが一番外側に回るといふ、雨どい。

○長大

基本的に、雨どいが回ります。というのは、雨どいだけじゃなくて、先端の片持ち梁として構造体が回るんですね。

○岡河座長

これは、素材はスチールに亜鉛メッキをしたものに塗装をしたものというふうに考えてよろしいんですか。

○長大

鋼材。

○岡河座長

鋼材です。

○長大

そうです。

○岡河座長

鋼材で、裏側のステンレスの雨どいとは別だというふうに考えられるんですね。

ここにも、一応、水が後ろに向かって流れるようなディテールにはなるんですか。それとも、ここには水はたまらない。

○長大

いや、水下が、外のリングですので、中央ですので、周りに水が流れて。

○岡河座長

流れてくる。要するに、樋の機能を、ここは持つということですね。

○長大

回って、後ろのほうから落ちてくる。

○岡河座長

ということですね。それを後ろに流して、下から……。そうすると、やっぱり、ここは、メンテとか、それができるような、一応、ものとしてつくられるということですね。

○長大

はい。

○岡河座長

はい、わかりました。

ちなみに、これ、今、見付けの厚さは、どれぐらいですか。

○長大

今、これは、幕板が、今、600。

○岡河座長

600ミリ、60センチということですか。

○長大

そうです。

○岡河座長

60センチと言ったら、かなり大きなものですね。

○藤井委員

結構、大きいですね。

○岡河座長

パースで見るとそんなに大きくないけど、現実には、ここは。

○長大

済みません、400でした。失礼いたしました。

○岡河座長

400、そうですね。

○谷本街路課長

450でございます。

○岡河座長

450で、柱が、さっきの276の柱か。

○長大

はい。

○岡河座長

ここも柱の径は同じですか、大きくなるということじゃなくて。

○長大

同じ径でいきたいと思っています。

○岡河座長

そうですか。はい、わかりました。

じゃあ、今の絵は、そんなようなバランスかな。ただ、450でもこれぐらいのということ、そういうことだと思います。

大体、時間になりましたが、あと一つぐらいでも、委員の方せっかくですから、ございましたら、ぜひ御質問してください。

○伏見委員

ここの、さっきから出ていました1,100の手すりの部分の。

○岡河座長

絵としては、何ページの。

○伏見委員

6ページの。

○岡河座長

6ページの、ある、手すりですか。

○伏見委員

手すりの縦のスリットと。

○岡河座長

縦のスリット。

○伏見委員

縦の。

○藤井委員

支柱ですか。

○岡河座長

支柱ですね、はい。

○伏見委員

それと5ページの、ほかの、例えば、中央ペデのこの縦の支柱と形状が違うようにペデが見えるんですけども、これは同じ形が。

○岡河座長

これ、同じもんじゃないですかね。同じですよ。多分、恐らく、パースの位置関係で、そういうふうに、ちょっと。



○伏見委員

そうなんですか。

○岡河座長

これ、同じものですよ。基本的には、手すりは。

○長大

ピッチは若干違いますけども、基本的に二枚の縦の手すりに合わせて、それで、あとつないで、手すりが三段あるというのは、同じです。

○岡河座長

同じボキャブラリーで、ピッチとスパンだけ変わってくるところが出てくるということなんですね。それで処理をする。

○伏見委員

6 ページ、縦のその支柱は、サイズ、直径はどれぐらいになるんですか。

○長大

どこですか。

○伏見委員

6 ページの 2 階の、この図。

○長大

支柱の。

○伏見委員

はい。

○長大

支柱は、箱形の上二枚のプレートで構成されています。

○岡河座長

両側がプレートですよ。

○長大

はい。

○岡河座長

プレートを結んでいる部材も、一応、プレートで溶接かなんかしてあるんですか。

○長大

ボックスの柱の二辺が出ているという。

○岡河座長

ボックスの二辺が出ている。縦の二辺、2枚のプレートが少しボックスよりも出ているということで。外から見ると、二枚のプレートが認識できるようなディテールになっておるといことですね。

○長大

そうです、はい。

二枚のプレートがアールを。

○岡河座長

アールで少し。

○長大

その間に、手すりの受け金具がついている。

○谷本街路課長

済みません。ちょっと2ページの右下の図面を見ていただければと思うんですが、内側から見ると、ちょっと直に見えるんですけど、外側に丸みがあると。このパースのほとんどの通路の部分は内側からの視点で見えていますので、真っすぐ。最後の6ページは外から見えていますから、丸みをつけている。赤が支柱でございますので、そういった形の見え方が違うだけで、同じものでございます。

○伏見委員

はい、わかりました。ちょっと違って見えたものですから。

○岡河座長

これは、でも内側から見ると、両側のプレートが少し出ているように見えるんですね。外側は一体で、そのボックス状に、曲がっていますけど、というふうに理解したらいいんですね。

○谷本街路課長

それでいいんですが、ちょっと、パース上、そこら辺まで細かく写すことができなかったんで、内側だけしか見えないような状態になっています。

○岡河座長

これも、スティールをどぶ漬けして塗装をすると。さっきのフッ素塗装をすると。

○長大

あそこは、手すりはアルミニウムですが縦の部材はステンレスです、今。

○岡河座長

支柱はステンレスなんですか。

○長大

ステンレスです。

○岡河座長

ステンレスの。そうですか、それは非常にいいことですね。スチールだと、やっぱり安全性というか、将来のあれが。じゃあ、ステンレスのプレートでつくっていくということですね。非常に高価な手すりを、縦棧というかな、支柱ですよというのか。

○藤井委員

ちょっとすみません、時間も押しているのに。私の経験なんですけど、ブラストの打ち方によって、ステンレスはいろんな色と仕上げ方が。

○岡河座長

仕上げ方が、鏡面仕上げとか、多少。

○藤井委員

ぜひ、そういうのを御検討いただければと思うんですが、支柱ですから、少し乳白色のようなものとか、つるつるといような表面仕上げじゃなくて、そういうふうなブラストの打ち方、ガラス水を打ったり、そういうふうなのがありましたら、ちょっと御検討いただければと思ひまして。

○岡河座長

ステンレスは仕上げ方で大分印象違いますから、ただ、せっかくいい材料で、耐久力もある材料をお使いになるということですので、それを超えてさらに仕上げまで、少し、結構、立派なものになると思いますよ。そういう意味でいくと。

○藤井委員

すごく穏やかな感じになったりしますから。

○岡河座長

一応、予定していた時間はぼつぼつ消化いたしましたので、よろしいでしょうか、各先生方、それで。はい。

それでは、予定の時間が参りましたので、本日予定しておりました議題については、以上でございます。

では、平成25年度第1回広島市都市デザインアドバイザー会議を終了させていただきます

す。

議事進行を事務局にお返しいたしますので、よろしく願いいたします。

**○長光都市デザイン担当課長**

それでは、委員の皆様には大変お忙しい中、貴重な御意見、御提案をしていただきまして、ありがとうございました。事業者の皆さんにおかれましては、本日の意見を尊重して、今後の事業を進めていただきたいと思います。

本日は、ありがとうございました。